

Kino Press is a newsletter published by Kyoto Seika University and distributed to students, faculty, administrators, graduates and other members of the university community.

# K I N O P R E S S

# 木野通信

This publication is intended to keep readers informed of all aspects of K.S.U.'s developments, including on campus events, personnel changes, students news, and perspectives on campus life.

京都精華大学 企画室  
京都市左京区岩倉木野町137  
TEL (075) 702-5201

1992年10月20日  
京都精華大学発行

KYOTO SEIKA UNIVERSITY

第18号

## 二十一世紀を迎える 日本の大学の「危機」の本質

学長 柴谷篤弘

現在日本の大学が直面する困難と考  
えられているものは、十八才人口の急  
激な減少による、いわゆる「大学の冬  
の時代」、そのなかに置かれた大学の生  
存のための競争であると一般にうけと  
められている。

これに加えて(あるいは意図的に仕  
組まれて)、大学の設置基準の「大綱化」  
が行われ、それとの関連で、大学の自  
己点検・自己評価の必要性が定められ  
るようになった。いずれも日本の大学  
にとっては、最初の経験であり、国公  
私立大学はそれぞれの目的に対してと  
まどいながら動きだし、あるいは動き  
だそうとしている。

私は去る四月、まったく思いがけず、  
またいちじるしく無知・無経験・無準  
備の状態に、本学学長の任務をお引き  
うけて以来、六か月の間に種々の訓  
練・教育・助言をあらこちから受け、  
ようやく本学だけでなく、日本の多く  
の私立大学が置かれている状態が、何  
を意味し、何が大学にとっての危機な  
のかについて、ひとつの焦点が定まっ  
てきたように思われる。

それは国際競争競争のなかにおかれ  
た日本で、立国の基礎とみなす科学技  
術について、それを真に支える学問の  
ための社会的体系が日本には具わって  
いないことに、日本の産業界が気づき、  
日本の大学の、いわゆる教授会自体が、  
その改善へむけて、おそらく無力であ  
ることへの企業・社会一般のいらだち

のあらわれであると思う。

大学改善へむけての社会的な方向  
づけは、「教授会自治」の見直し、  
その体質改善であるようだ。これを  
いきなり外部から行うのではなし  
に、大学の自前の努力でそれをなし  
とげるように、ということである。  
そしてそのために自己点検・自己評  
価の方向づけや、基準が示されるよ  
うになった。しかし最近、数少ない  
先発大学からの発信によれば、自己  
評価が完成し、改善のための処方箋  
が書かれた段階でことは停止してし  
まって、そこから先は一步も進めな  
い状況であるようである。

企業の方は、本音では大学の人員  
整理・若返りを要求しているのであ  
るが、立前上は血なまぐさい処方を  
さけるための方便として、自己点  
検・自己評価を推奨しようとして、  
とれる。しかし私の予想としては、  
この方式は大学の現有教員組織を  
「整理し活性化」させるには役立ち  
そうにはない。いくら尻をたたかれ  
ても「学長の権限」では、活性化の  
勧告案を実施できるはずがない。企  
業は、世界市場への輸出洪水によっ  
て、過剰・遊休人員の再雇用に成功  
し、さらにはやむをえぬときには「懲  
罰」人事で切りぬけてきた。それ  
はある意味では世界経済をむこうに  
まわしての独善的な政策であったの  
かもしれない。しかし大学には、こ

のような便法はひらかれてはいない  
ように思われる。

へたをみると、自己点検・自己評価  
にふりむけられた膨大な資源は浪費に  
陥りかねないのである。大学活性化の  
ためのもうひとつの突破口は、すこし  
迂遠なようであるが、新任人事の活  
性化であるように思われる。しかしふし  
ぎなことに、今日までに語られ、書か  
れてきた大学の自己改善の視野のなか  
に、この項目を見いだすことは困難で  
ある。これは、大学の人事権が従来ま  
で大学の教授会の自治の鉄則に守られ、  
多くの大学ではこの鉄則に対して、経  
営側ないしは学長さえも、介入する  
ことを阻まれていたからのように思わ  
れる。しかしこの形式が、大学におけ  
る清新な人事をさまたげてきたとい  
うのもまた事実である。

私の見解によれば、大学の活性化の  
核は、教授会の自治そのものをどのよ  
うに点検・評価するかにある。これま  
でのこの制度の効果は、よくいって半々  
であったと思う。そして社会はこの点  
についての大学の「自己改善」を、自  
己評価の導入によって動機づけようと  
期待しているらしい。しかし大学側が、  
かたくなに素朴な教授会自治信仰をま  
もりつづけているだけで、改善の実が  
あがらねば、大学の自治の神話は公け  
に碎かれるであろう。大学の自治の再  
評価・再定義・再出発がいまほど緊急  
である時はないと思う。

## 京都精華大学 1993 年度入試日程

### 人文学部

- ①募集定員……人文学部 人文学科 300名
- ②入試日程・試験会場・試験科目

	出願期間	試験日	合格発表	手続締切	試験会場	試験科目
公募推薦入試	11月2日(月) ~ 11月13日(金)	11月22日(日)	11月27日	12月7日	本学及び 関西文理 学院	英語
一般一次入試	1月20日(水) ~ 2月3日(水)	2月11日(木)	2月16日	2月25日	本学及び 関西文理 学院	英語、国語、 選択科目(日本史・ 世界史・小論文から 1科目選択)
一般二次(地方)入試	2月15日(月) ~ 2月26日(金)	3月5日(金)	3月9日	3月17日	東京 金沢 名古屋 広島	英語、国語、 選択科目(日本史・ 世界史・小論文から 1科目選択)

- ③推薦入試受験資格……評定平均値・卒業年度は問わない。他大学との併願可。
- ④入試制度変更点……なし。

### 美術学部

- ①募集定員……美術学部 造形学科 150名 デザイン学科 150名
- ②入試日程・試験会場・試験科目

	出願期間	試験日	合格発表	手続締切	会場	試験科目
公募推薦入試	11月16日(月) ~ 12月4日(金)	12月11日(金) (洋画・陶芸・マンガ) 12月12日(土) (日本画・建築・版画・TD) 12月13日(日) (立体造形・VCD)	12月20日	12月31日	本学	実技A (鉛筆デッサン) 実技B (専攻分野実技)
一般入試	1月22日(金) ~ 2月5日(金)	2月15日(月)・16日(火) (洋画・陶芸・マンガ) 2月17日(水)・18日(木) (日本画・建築・版画・TD・ 立体造形・VCD)	2月24日	3月5日	本学	英語 文章の理解 実技A 実技B

- ③推薦入試受験資格……評定平均値・卒業年度は問わない。他大学との併願可。
- ④入試制度変更点……実技Bの入試日程が重ならない限り第2志望まで併願可。



# クラブ紹介

## 空手道部

監督 栗葉 満 (人文学部教員)  
主将 野野良隆 (人文学部三回)  
部員 十九人  
流派 松濤館

空手道部は発足から四年目を迎えた。まだ新しいクラブの一つではあるが、昨年度、全関西学生選手権でベスト16に入るとともに、全日本選手権の出場権を得た。しかし全日本では一回戦で敗退し、その壁の厚さを体験した。この敗退で得た課題と悔しさをともに、部員一同、一致団結し、厳しい中にも楽しさを求めた練習により、今年度も全関西の大会では二年連続してベスト16に入ることが出来た。今、部全体の目標としては、十一月十五日に日本武道館にて行なわれる全日本学生選手権で念願の一勝を挙げることであり、日夜、春秋館で熱く燃えている。



## 京都学生剣道入賞

建築の  
橋本くん

六月十四日の第三十四回京都学生剣道大会で、建築一回生の橋本尚之君(二段)が個人戦の部で同志社大、京都産業大など並居る体育会強豪校を破って三位に入賞しました。彼は、その涼しげで端正なマスクからは想像できない流星のような剣風を誇り、圧倒的に上位に進出しました。惜しくも準決勝で仏教大の畑田君に延長戦のすえ破れ決勝進出はなりませんでしたが、自他ともに認めるその非凡な才能には底知れぬものがあり、関西学生剣道界の台風の目となることでしょう。剣道部の今後の活躍が期待されます。



## 卒業生便り いまでも乙女チックな 大久保順子さん (1985年度 英文科)



精華をでて一年間はアルバイトしながらまた受験勉強の日々でした。競争率五倍の難関をパス、めでたく看護婦の資格も取れ、一九九一年に滋賀県立小児保健医療センターに就職しました。一ヶ月程の訓練期間の後、学童病棟の配属になりました。いろいろな患者がいて、仕事内容は一定していません。入浴の世話、着替えの手伝い、その他さまざまなお

## 吹奏学部

### 優秀賞を受賞

八月七日に宇治文化センターにおいて京都吹奏楽連盟主催のコンクールが開かれました。今年度から連盟に加盟し、コンクールにももちろん始めて出場したのが吹奏楽部でしたが、小編成大学の部で優秀賞を受賞することが出来ました。日頃の練習ではめったに見られないような緊張感が客席にまで伝わってくるような演奏ぶりでした。

### 「残像」 今井憲一

### カタログ・レゾネ

刊行のお知らせ

京都に生まれ、昭和を生きた洋画家、故今井憲一先生の油絵作品と素描を網羅したカタログ・レゾネを、十月一日に京都精華大学図書館より刊行しました。今井先生の作品の大部分は昨年度に寄贈され、調査整理する過程でカタログが実現したものです。書名の「残像」は、夢の記録「残像シリーズ」を収録していることに因りま

### ドイツの銅版画家 メクセーパー氏を 迎えて

メクセーパー氏といっても若い学生諸君には聞き慣れない名前かも知れませんが五〇年代から今日にかけて、世界の第一線で活躍するドイツの銅版画家です。その知的で人間への深い信頼感に満ちた作品は、日本に多くのファンやコレクターを持ち、ヴンダーリヒ、ヤンセンと並んで現在ヨーロッパで三大巨匠の一人と讃えられています。このたび長岡教授のご努力と京都ドイツ文化センターのご協力によって氏を本学にお迎えし、ユーモアあふれる講演と銅版技術の如き技法の紹介に接し得たことは、またとない機会でした。氏の名声を知る学外の参加者も多く、当日(六月一日)熱心な質疑応答が後を絶ちませんでした。また川端通のドイツ文化センターでは、初期から最近作に至る氏の足跡をたどって、関西初のもとまったメクセーパー展が開かれ、多くの入場者を魅了しました。

## 教職員研究活動 (アルファベット順)

- ◆麻田脩二 (美術学部教授)
  - 新作展 1991.9 東京都美術館
  - 個展 1991.10 キャラリマロニエ Contemporary Art 1 葉 1991.10 伊丹工芸センター
  - 発動する現代工芸 1991.11 京都市美術館
  - 第2回清流展 1992.5 京都市美術館
  - 染・織—京都からの発信 1992.7 京都府文化博物館
  - ◆千坂靖朗 (人文学部教授)
    - 「出エントト記」(二、十四)とトマス・アクイナスの存在論 1991.12 京都精華大学紀要No.3
    - 「ヨハネス・ケイドルト・パルシエン」の存在論にめぐって 1992.7
    - ◆遠藤育枝 (人文学部講師)
      - 「ゲド戦記第4部—テハス」 1992.1 飛ぶ教室41号
      - アメリカ児童文学の旗手「ぼくが死んだ朝」 1992.7 飛ぶ教室43号
      - 「合衆国秘密都市」F・ホルマン著(単訳) 1991.10 出版工房原生林
      - 「ユース」C・バターン他著(共訳) 1992.8 ほるぷ出版
      - ◆呉 宏明 (人文学部助教)
        - 「日本統治下台湾における台湾教育会にめぐって」 1991.9 土曜日(創刊号)
        - ◆橋爪神也 (人文学部講師)
          - 「マスシテイ 大衆文化都市としての日本」(上田篤編) 共著 1991.11 学芸出版社
          - 「海底都市—アーバンリゾートの近代」(単著) 1992.2 白地社
          - 「文化の再点検と地域社会のめぐり」 阪神間文化のアイデンティティを探る(財団法人あまがさ未来協会展) 米山俊直他との共著 1992.7 きょうせい
          - 「アミューズメントスペース事始」商店建築 1992.1—連載中 商店建築社
          - 「にぎわいを創る」ANEMOS」 1991.1—連載中
          - 長谷工コーポレーション総合研究所
          - 「メトロポリタン・ライブラリー」SDJ 1991.3—連載中 鹿島出版会

- ◆葉山 勉 (美術学部講師)
  - マスシテイ共著 1991.11 学芸出版社
  - 移動する遊体(グループ展) 1991.11 京都芸術短期大学
  - A・シュバイクホフアー展覧会プロデューサー・会場構成 1991.11 DILIPA 移動式住居 1991.1 日経アーキテクチャ
  - ◆橋本初子 (人文学部教授)
    - 「三三院の荘園」(単著) 1991.10
    - 「神變」九五七号(当山派修験の機関紙、以下同)
    - 「公家の手紙」(単著) 1991.11
    - 「京の街に古書を積む」(単著) 1991.12.17付 京都新聞文化欄
    - 「女房書」(単著) 1991.12
    - 「古典の伝授」(単著) 1992.1
    - 「古文书から見た丹波の歴史」醍醐寺文書と篠村八幡宮— 1992.2
    - 「文化財報」七六号 京都府文化財保護基金
    - 「醍醐寺文書にめぐって」・革島家文書にめぐって(単著) 1992.3
    - 「日本歴史古文书総覧」新人物往来社
    - 「土地を売り渡す文書」(単著) 1992.2
    - 「守護の文書」(単著) 1992.3
    - 「伊勢の末寺と古文書」(単著) 1992.4
    - 「莊園所職の辞令」(単著) 1992.5
    - 「おくらの調査」(単著) 1992.6
    - 「日本歴史寺院総覧」新人物往来社
    - 「信長の朱印状」(単著) 1992.6
    - 「神變」九六五号
    - 「僧の推挙状」(単著) 1992.8
    - 「伝奏の奉書」(単著) 1992.9
    - 「史料紹介 三三院賢僧正日記—貞和三年—」(単著) 1992.3
    - 「研究紀要」二二号

- ◆佛光寺御日記 第七卷—寛政10年—(共著) 1992.3 本山佛光寺
- ◆生駒泰充 (美術学部講師)
  - 第4回復興展 1991.9 日本橋三越
  - 第45回二紀展 1991.10 京都市美術館
  - 第45回三紀展 1991.11 京都市美術館
  - 第5回AUBE展 1991.12 日本橋三越
  - 第2回爽樹会展 1992.1 蔵丘画廊
  - 個展 1992.4 日本橋三越
  - 二紀会選抜展 1992.4 セントラル美術館
  - 新作小品展 1992.5 ぎやらり友美堂
  - 第4回明輝会展 1992.5 もりもと画廊
  - アルケーの会展 1992.6 ぎやらり友美堂
  - 0号の世界油絵展 1992.6 日本橋三越
  - 京都二紀展 1992.6 府立文化芸術会館
  - 関西二紀展 1992.6 大阪市立美術館
  - 個展 1992.7 三島 茜画廊
  - 第3回あさの会展 1992.7 新宿三越
  - ロスの会展 1992.8 ぎやらり友美堂
  - 第5回俊洋展 1992.8 日本橋三越
  - テオロギアーの仲間展 1992.9 キャラリイ椿
  - ◆市村富美夫 (美術学部助教)
    - 第22回日展 1991.11 京都市美術館
    - 第2回現代工芸近畿会選抜展 1991.12 府立文化芸術会館
    - 第22回日展京都展 1991.12 京都市美術館
    - 第31回日本現代工芸美術展 1992.3 京都市美術館
    - 第31回日本現代工芸美術近畿展 1992.4 京都市美術館
    - 第31回日本現代工芸美術近畿展 1992.4 京都市美術館
    - 第2回清流会展 1992.5 京都市美術館
    - カレントクラフト展 1992.7 高知大丸
    - 染・織—京都からの発信 1992.7 府立文化博物館
    - ◆伊奈新祐 (美術学部講師)
      - ImageTV「虚像と視覚の出会い」 1991.9 HEART FIELD GALLERY
      - ビデオ・ショーイング 1991.12.9.23 ビデオ・ショーイング 1991.12.9.23

- ◆東京代官山 C
  - 第3回テレビ・ビデオ・フェスティバル 1992.2 青山スパイラル BS 映像美術ショーケース 1992.4.9.3 NHK衛星放送(BS2)番組
  - 日本映像学会第18回大会映像展 1992.6 「日本のビデオアート特集(80年代編)」: ビデオ・カクテル」 1992.6 世田谷美術館
  - ビデオ個展 1992.8.9 Love Collection Gallery
  - ◆笠原芳光 (人文学部教授)
    - 「宗教教育を超えて」 1991.9 「パラディン」
    - 「内村鑑三と新島襄」 1991.11 「同志社時報」
    - 「戦後思想史とキリスト教」 1991.11 「聖書と教会」
    - 「教育の逆説」 1991.12 「パラディン」
    - 「休講にめぐって」 1991.3 「パラディン」
    - 「先生」と「教え子」 1992.6 「パラディン」
    - 「宗教以前と宗教以後」 1992.7 「アロー」
    - 「良心的兵役拒否を考へる」 1992.7 「思想の科学」
    - 「池田三四郎と民芸」 1992.9 「日本美術工芸」
    - ◆北脇徳子 (人文学部講師)
      - 「ハーディの小説における父と娘」 1991.11 「英米文学手帖」第29号
      - 「フイケル・ヘンチャードの悲劇」 1991.12 京都精華大学紀要 第2号
      - Fathers and Daughters in Thomshardy's Novels 1992 京都精華大学紀要 第3号
      - ◆黒崎 彰 (美術学部教授)
        - 日本の現代版画五人展 1991.9
        - ガラスコーププリントギャラリー(スコップランド)
        - 第1回国際コンテンツポラリアートフェア 1992.3 NICAF(パンフィコ横浜)
        - 第2回パンスカピストリカ国際版画ビエンナーレ 1992.9 (チェコスロバキア) 個展 1991.11

- ◆小林陸一郎 (美術学部教授)
  - 第46回行動展 1991.9 東京都美術館
  - 個展 1991.10.11 キャラリイスキ(京都)
  - エマ展 1992.1 布忍神社(大阪)
  - ミニ立体展—Part 8— 1992.1 茶屋町画廊(大阪)
  - 個展 1992.1.2 茶屋町画廊(大阪)
  - 全関西行動展 1992.4 大阪、京都美術館
  - 第3回現代彫刻美術館野外彫刻ビエンナーレ—ボジウム— 1992.7.9 群馬県津静可山
  - ◆柏原えつとむ (美術学部助教)
    - 日産建設社ロビー—絵画制作— 1991.9 個展 (東京)
    - 個展 (シンボルの面数) 1991.11 個展 (Symbolic space) 1991.12 サイ画廊(大阪)
    - ドローイング倉庫展 Part 3 1992.1 ヒルサイドギャラリー(東京)
    - NICAF YOKOHAMA'92 1992.3 ベンフィコ横浜(神奈川県)
    - 壁面制作 1992.4 厚生中央病院(東京)
    - 壁面制作 1992.6 リーベ竹ノ塚(東京)
    - 個展 (逆流の川) 1992.9 鎌倉画廊(東京)
    - ◆楠瀬佳子 (人文学部教授)
      - B・フックス「白人至上主義を克服する闘い」(訳) 1991.9



# 第1回 合同同窓会 開かれる

去る八月十六日(日)、大文字送り火の日、都ホテルにて同窓会設立五周年を記念して、第一回美術科(学部)・英文科合同の同窓会が開かれました。出席者は四十四名の教職員を合わせて二百五十名程でしたが、賑やかな又なつかしい会を成功のうちには催すことが出来、準備委員一同ホッといたしました。

会は、赤坂同窓会会長、柴谷学長、岡本初代学長の挨拶の後、当日、出席者の中で一番若い熊谷圭子さん(八十八年英文入学)の乾杯の音頭で開会されました。皆様テーブル毎



8月16日、都ホテルにて「第一回同窓会」

にあるいはテーブルからテーブルへ談話の輪を広げ懐かしさを満喫しつつ、思い出や、現在の情報交換等に余念がない様子でした。

途中、現在吉本で活躍中のチャランポランの大西君にマイクがわたり、彼のインタビューをまじえてのユーモアあふれる話に笑わされるうちに入江副会長の閉会の挨拶となりました。

八月十六日という日時設定にいろいろな意見が開かれました。お盆行事等の為、当日惜しくも参加出来なかった方々におわび申し上げます。

## 『木野会』 総会・懇親会のご案内

会長 赤坂 博

卒業生の皆様方には、お元気で活躍のことお喜び申し上げます。「木野会」は今年五周年を迎えるに当り、記念行事として去る八月十六日第一回同窓会を開催致しました。お盆のお忙しい時期にもかかわらず多数の卒業生の皆様や教職員の方々に参加していただき賑やかな一日を過ごすことが出来ました。今後の会の活性化にご理解をいただけたものと役員一同感謝しております。

さて、十一月三日、木野祭の当日第五回木野会総会を大学にて開催いたします。総会終了後には例年の通り懇親会を計画していますので、友人の皆様とさそい合って参加していただき、学生時代にもどり楽しい一日をお過ごし下さい。

また卒業生の皆様が社会で活躍されている様子の紹介や、それぞれの地方において、コミュニケーション作りを充実させることが会の内容を充実させることと考えております。友人の近況や活躍の様子等を大学の同窓会窓口までお知らせ下さる様お願い申し上げます。

### 同窓会費の振込みを お願いいたします

第一回同窓会の案内の後、多数の新たな同窓会費納入を頂きました。ありがとうございます。

五周年を迎え、私達役員も何かと重いのです。同窓会費は主に会員相互の情報提供に使われるものと信じております。いかなる情報をもどのように提供出来るか、その為に常に情報集めをする努力が必要です。これも皆様のご協力なしには実現出来ない事です、今後とも宜しくお願い致します。

尚、活発な活動の基盤となる資金源は皆様の振り込んで下さる同窓会費に他ならないのですが現在の納入状況は残念ながら充分な活動費には足りないものです。

今後の新会員となられる現役学生の方々には入学時に予約金を預かるという案に大学側にも賛成頂き、現在詳細を検討中です。

### 第5回 同窓会

日時  
1992年11月3日(火)〔祝日〕

#### 総会

午後1時30分より  
明窓館 201教室

#### 懇親会

午後2時30分より  
春秋館 201教室

### アセンブリーメモ

#### 河合先生とウサギの話をした

人文4年 満林晃典

アセンブリーが終わって本に著者のサインを貰おうとついでにいった。河合先生みたいな大御所になると、書物や情報やあらゆる物が座っていても手に入ってくるので、もうフィールドワークなんかに出かけないと思っていた。

そんな人が「この前オーストラリアに行ったとき、もうウサギが過剰に繁殖していて道路脇にころころしているし」と言われたのでびくびくりしてしまった。僕もオーストラリアに行ったときそれを目撃している。

父親というのは今では権威を失墜してしまつたと嘆くけど、昔は物知り、というか情報量で圧倒してたので尊敬を得ていたと思う。

ハウ・ツーもの情報では女の子にうけないのと同じで、メディアからの情報をひけらかしても尊敬なんかされない。河合先生は情報を自分の足で得ておられる。

私達は人文学部でフィールドワークという勉強をしているが、どれだけ自分自身の情報をもって、新しい行動を起こしているだろうか。

宮崎県幸島のニホンザルの社会では新しい行動を始めるのは若い狼連だという。初めてイモを洗い出したのも初めて海に入つて泳ぎを始めたのも若い子ザルだったそうだ。

河合先生は今なお独創的な仕事を続けておられる。(若い)私達は、新しい行動を起こすことができるだろうか?

### 公開講座'92

#### 後期スケジュール

- 京都精華大学アセンブリー講演会  
(十時四十分~十二時十分春秋館)
- 10・1 物語消費論 少女ナタクマガ 大塚英志氏 編集者
  - 10・15 人間はどこまで動物か 日高敏隆氏 京都大学教授
  - 11・5 女性アーティストの挑戦 萩原弘子氏 大阪女子大学教授
  - 11・19 国際化と国際交流の現状と展望 I 日本とイギリスを中心として マチンコリック氏(日本語)
  - 12・3 シェアフィールド大学教授 形態模写、マルセ太郎による映画館「泥の河」 マルセ太郎氏 ボードピアアン
  - 一九九二「京都の伝統工芸」講座  
毎週木曜日 一〇〇〇~二、三〇〇
  - 9・24 京都の伝統産業における現状と展望 川島春夫氏 川島織物名譽会長
  - 10・1 現代陶芸 柳原睦夫氏 大阪芸術大学教授
  - 10・8 日本の創作版画 徳力富吉郎氏 版画家
  - 10・15 テキスタイルデザインの現状と展望 清水忠氏 デザインプロデューサー
  - 10・22 映画撮影における美術について 石原昭氏 東映京都・常務取締役
  - 10・29 宮崎友禰と友禰染 切畑健氏 大手前女子大学教授
  - 11・12 京菓子のいろは 山口富蔵氏 末富社長
  - 11・19 佛像彫刻 江里康慈氏 佛像彫刻家
  - 11・26 生活とデザイン 恩地惇氏 GK京都取締役
  - 12・3 友禰の話 羽田登喜男氏 日本工芸会理事